

2015年度 東京蜘蛛談話会総会例会

1. 日時 2015年5月10日(日) 10時より(開場9時30分)
2. 場所 東京環境工科専門学校 〒120-0022 東京都墨田区江東橋 3-3-7
JR 総武線 東京メトロ半蔵門線 錦糸町駅南口から徒歩3分
3. 連絡 当日は、東京環境工科専門学校の電話が使用できないので、緊急時には以下に連絡ください。
加藤輝代子 090-7012-6458 初芝伸吾 090-6156-8378
4. その他 プロジェクター、OHP 等用意いたします。
5. 講演をご希望の方は、演題と使用希望機材(スライド、OHP、コンピュータ)を事務局初芝までお知らせください。

〒186-0002 東京都国立志東 3-11-18-203 有限会社エコシス 初芝伸吾
 mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.jp
 Tel : 042-501-2651 Fax:042-501-2652

●錦糸町駅南口から徒歩3分です。



東京蜘蛛談話会 2014 年度採集観察会

1. 期 日： 第4回 2015年2月15日(日)
2. 場 所： 神奈川県藤沢市 新林(しんばやし)公園
3. 集 合： 集合 10:00 藤沢駅南口バス乗り場①
藤沢駅南口乗場①「桔梗山行き」行き 10:15 発に乗車。ひとつめのバス停「富士見ヶ丘」下車(170円)。そこから徒歩5分。乗り遅れると他の乗場から鎌倉・手広方面行のバスに乗ることになります。富士見ヶ丘経由のバスはたくさんありますがバス停から新林公園までは路地を歩いて行く必要があります。案内板もありません。
4. 世話人： 池田博明
携帯電話：090-9670-1525

東京蜘蛛談話会 2015 年度採集観察会

1. 期 日： 第1回 2015年5月17日(日) 第2回 2015年7月12日(日)
第3回 2015年10月18日(日) 第4回 2016年2月21日(日)
2. 場 所： 神奈川県秦野市渋沢丘陵
午前中は水田、水路周辺 午後は丘陵の林内
3. 集 合： 集合 10:00 小田急線渋沢駅改札口
4. 世話人： 水山栄子
携帯電話：090-6143-6942

入退会は：事務局 初芝伸吾 〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8
コンフィデンス高垣 105 有限会社エコシス
E-mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

KISHIDAIA 原稿投稿先：池田博明 〒258-0018 足柄上郡大井町金手 1099
E-mail : fwgd9084@mb.infoweb.ne.jp
キシダイアの原稿締め切りは、6月末日と12月末日です。

東京蜘蛛談話会の会費は、一般 3800 円、学生 2000 円です。
郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。
会費のことは：会計担当 須黒達巳
〒240-0026 横浜市保土ヶ谷区権太坂 1-39-6
TEL : 080-5683-2765 E-mail: t.s.schlegelii@gmail.com

※談話会の会費は前納制となっております。本号に請求書と振込用紙を同封いたしましたので来年度分までの会費の納入をお願いいたします

東京蜘蛛談話会例会

2014年12月8日 東京環境工科専門学校にて
参加者一同



(1) 絵本制作の現場から

池田博明



(2) クモの常識？

池田博明



(3) シッチコモリグモのオスの闘いとコモリグモの同定に関して

輿石紗葉子



(4) 2014年イソコモリの旅

谷川明男・新海 明



(5) ハタケグモの研究も始めました

須黒達巳



(6) チャクロワシグモの好物はダンゴムシ

安藤昭久



(7) クモの話題3つ
レッドデータ・ワールド
ドスパイダーカタログ
・セアカゴケグモ

小野展嗣



(8) 電子顕微鏡で見
たクモの微細構造
(15) 一篩板類の出糸
管一

梅林 力



埼玉県にセアカゴケグモ現われる

嶋田 順一

平成 26 年 7 月 30 日の埼玉新聞に「県は 29 日川越市砂新田で特定外来生物の毒グモ，セアカゴケグモ 1 匹が見つかったと発表した。」との写真付記事がありました。発見したのは砂新田のアパートに住む女性で，生きたクモをケースに入れて市内の県西部管理事務所に届け出て，国の環境事務所で確認したとのこと。発見されたのは体長 1.5cm のメスです。

担当課にその後の状況を聞いたところ，このクモは現在，県みどり自然課で液浸標本にされて保管されているとのこと。また，市の職員などで発見場所付近を探したが，他の個体は確認されなかったようです。発見された詳しい住所については教えてもらえませんでした。

追記

その後，県内にて 9 月 30 日三郷市茂田井の浄水場敷地内で，セアカゴケグモ 47 匹を見つけたとのこと。前日の 9 月 29 日に 4 匹が発見されていたので専門業者の殺虫作業中に新たに見つかったとのこと。また，10 月 3 日には春日部市大枝の武里団地で 9 匹を見つけたとの発表があり，ともに卵のうも確認。このことからすでに県内ではかなりの広い範囲でセアカゴケグモが生息していると思われます。

東京蜘蛛談話会の旗について

嶋田 順一

一昨年，30 数年の長きにわたって預かったままになっていた談話会の旗をやっと観察会の担当者（一昨年は平松さん）に戻すことができました。

あまりに長く使用されなかったため，談話会に観察会のために作られた旗があることさえ，全く知らない会員がほとんどになってしまったのではないかと思います。全くもって会の皆さまに申し訳なく思っております。

この談話会の旗が作られたいきさつが、「談話会通信（1974.5.12）八王子城址クモ採集観察会報告（1974.5.13）松本誠治」に記されておりますので、その一部分を紹介します。

「この間に、一般の方にも呼びかけたのだから、集合場所がわかるようにと旗を作った。旗のデザインは松本がし、新海君、萱嶋先生にも相談したところ、まあまあだから、専門家小澤



氏の意見を聞くようにいわれ、葉書で相談。7日間の後、懇切な返事が届き、銅鐸中のクモの図やコガネグモなら黄と黒の縞だけでもコガネグモと示唆され、再び萱嶋先生、新海氏と討議の結果、デザインを決定。（出来上がりのものは、少々地味すぎた）」

ちなみに、談話会通信のNo.1は1974年10月25日で旗の記述がある通信はそれ以前の通信です。これから、この談話会旗が観察会や例会などでどんどん使われればと思っております。再度陳謝。

京都だより（2）湯豆腐めぐり

新海 明

かつて冬になると京都で湯豆腐の会を毎年のようにやっていたことがあった。最近の仕事の兼ね合いから数年に一度しかできなくなってしまった。

私の京都での行事は、衣笠の立命館大学のクモゼミとだいたい関わっている。あれは金野さんと畑守さんが結婚する前の1994年1月のことだったと思う。宮下さんを誘って京都クモゼミに参加したときのことであった。ゼミの翌日に観光をかねて大原に遊んだ。参加者は私と宮下さん。そして金野畑守さんの4人だ。朝は晴れていたが途上雨となり大原付近は雪原となっていた。寂光院と三千院を巡り、三千院の門前からバス通りまで続く観光客目当ての土産物屋をひやかしていたときのこと。昼過ぎだったが、雪のせいで薄暗くなったあたりの景色に、来訪者のためにあつらえた炬燵の下に敷かれた緋毛氈の鮮やかな朱色がやけに旅心をくすぐったのだ。舞い落ちる雪のせいもあったのかもしれない。一同食事をかねて店内の緋毛氈を囲んだ。「湯豆腐」を注文して「ちょっと一杯」となったのは当然の成り行きだった。何せ面子が面子だ。金野氏は下戸だが、酒にはすこぶる詳しい。彼の選ぶ酒でまずかったものはない。飲めない人ほど味にはウルサイ。真理である。「のんべい」は逆に「酒なら何でも良いのだ」。だから味覚は当てにならない。だから、私もM氏もダメで、うるさいのは味でなく、口だけだ。

硝子越しに降りしきる雪はいや増すばかり。お銚子の数も積雪と共に増えていったのは言うまでもない。厠は店の脇にあるので、一度外に出なければならなかった。厠に出た者。皆ひとしく

同じ感想だ。「あたり一面の雪景色」「きれいですね」。こんな空模様なので来店者もなく、店内にいるのはわれわればかりだ。長居をとがめられることもなく、炬燵の上にはお鮎子が三列も並んだ。尽きぬ話は閉店まで続いた……。

これが京都湯豆腐会の始まりだった。これ以降、金野さんが湯豆腐の名店を探し、そこにメンバーが集まることになった。別段テーマや義務があるわけではなく、各自の近況やら、そのとき時の世間話をあれこれと語り合うだけだ。残念ながらあの時以来、雪見酒を味わうことは叶っていない。

ある年の冬（2011年2月12日）。名古屋で開催された中部クモ懇談会の総会の翌日だったと思う。おりしも天気予報は雪模様になることを伝えていた。しかし、昼頃に小雪がはらりと舞っただけで、その後すぐに時雨に襲われた。嵐山の渡月橋を背景にさっと降りしきる横殴りの時雨は、東京ではさまにならないが、ここでは良い「景色」となる。昼の湯豆腐の会のあとで甘味処に立ち寄り、渡月橋の袂で関西のメンバーとも別れた。谷川さんと渡月橋を渡り法輪寺へと足を伸ばした。ここに嵯峨嵐山を一望する展望台がある。京の町並みを見渡すと、時雨がもたらした暗い雲が船岡山の上を通り過ぎる有様が望めた。そして、ここ法輪寺にはすでに条光が降り注ぎ青空がのぞいていた。

オニグモと風うさぎ

加藤 康子

『夕暮れは寂しいって誰かが言っていたけれど、私にとっては一日の始まり、生活のもとになる網づくりにいそしむ楽しい時間』と、オニグモは思っています。

空に向かって、そびえるように枝を広げたユリの木の大きな葉から 糸を飛ばして、オニグモはいつものように今夜の運試しをします。糸の先が うまく期待どおりの場所にたどりつけば、目の揃った綺麗な網を編むことができ 座りごこちも良いのです。そんな日は お腹いっぱい食べ物もやってくるでしょう。

ユリの木は オニグモのお気に入りの住み処です。何ととっても 夏に咲く大輪の花は見事で、緑色を帯びたユリのような形の花片をした花が枝からすっと立ち上がって開くのです。それはとても清々しく優雅で貴婦人の気高さがあります。

オニグモは 自分の姿とオニという名前とが ユリの木の凜とした佇まいに とても似合っていると 内心では感じていたのです。だからユリの木が特別に好きなのでしょう。夕陽に映える大きな葉影のくっきりと頼り甲斐ある力強さ、勤勉な性格のオニグモはそこに毎夜、美しい網をかけることに集中し努力します。出来上がった網が葉と葉の間でかすかにゆらぐ瞬間 満足感とささやかなしあわせとが心にひろがり 身体中の毛が一本一本すっきりと整う気持ちがするのです。



あたりが暗くなり人々は家路につき、静けさが訪れました。南の空に昇った蠍座のアンタレスが赤い光を放ち、山の端から広がる宇宙の領域を示しています。

そんなときでした ヒューと葉を揺らす強い風が吹き オニグモはしおり糸の先でクルクルと回りました。

と、ふいに目の前が鮮やかな緑色に染まったかと思うと オニグモの身体がフワリと空中に浮かびました。オニグモは慌てて糸を繰り出して、その緑色の物体につかまりました。丸くカーブ

した坂を下り 糸を伸ばして中を覗くと 何んと それは巨大な葉っぱで作られた傘でした。

みると、傘をさしているのは茶色の毛をしたうさぎで、おしゃれな洋服まで着こんでいます。うさぎは くすくすと笑いながら、前足に風車を持ち後足ではブンブンと回る風車をつけた風船を 右へ左へと上手に操っています。

「あなたはいったい誰なの？ いきなり私の糸を巻きこんで、こんな空中に放り出すなんてひどいじゃないの。いったい何をしようっていうの。どこへ行こうっていうのよ」 オニグモは思いきり足をばたつかせ 金切声をあげました。

「あっあっえーと、ぼくは風うさぎというものだよ。ユリの木の穴の中に住んでいるうさぎだよ あの、ほんとうに糸を引っかけてしまったことはごめんなさい でも先を急がなければ、すっかり暗くなってしまったからね、ぼくは 昼間の眩い太陽が沈んだあとに夜の空を飛んで風の色を見る役目をしているんだ これからすぐに出発しようと思ってる」

「なに？ 風の色？ か ぜ の い ろ？ でも・・・風に色なんてあったかしら？」

風うさぎは 少し顎を上げて得意げにクックッと鼻を鳴らして笑いました。

「みんなの感じているのは ただの大気の流れでしょう ぼくが見ているというか 見たいものは ありふれた自然と生きものたちのいとなみや触れ合いから生まれるのだけれど、互いの言葉や音楽や芳ばしい香りなどが行き来するときに 共鳴しあって現れては消えてゆく不思議な風の色で とても精神的なものなんだ 木も草花も虫も動物も話したり歌ったりしているって感じる事が 風の生まれる協和音になるんだ」

風うさぎは 自分の言葉に酔ったようにうっとり目を細めていました。

オニグモには そんな不思議な風の色のご想像もできませんでしたし 今までに誰からもそんな話を聞いたこともありませんでした。だから『このうさぎは どこかちよっと胡散臭いところがあるわ』と首を振ってしまいます。

「それで その、今夜あなたはどこでどんな風の色をみつけようっていうの？ それは私にも見えるのかしら？」

オニグモは問い詰める口調になりました。

「ハッハッハッハッ 見えるとも見えないともぼくには答えられないけれど、ひとつだけ言えるのは キミが8つも眼を持っているってこと、それはこの上なく幸運なことで、優位に立てるチャンスがあるってことなんだよ。」

風うさぎは勿体ぶった表情で胸を張りました。オニグモは この夢想的で偉そうなうさぎが好きになれない気持ちでしたが、彼の言う眼の数については 日頃から自信があったので、それは そうねと納得しました。

そして とりあえず傘の中に小さな網を張って風うさぎと共に 風の色をみつける夜間飛行にでかけることにしたのでした。

通信原稿投稿先：谷川明男 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail：dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

通信の原稿締め切りは、4月末まで、8月末、12月末です。